

62nd Internationale
Filmfestspiele
Berlin
Forum
ベルリン国際映画祭
フォーラム部門
正式出品作品



フタバから遠く離れて

Nuclear Nation

いま、世界がフタバを見守っている。

故郷から遠く離れた場所で、現在も避難生活を余儀なくされている福島県双葉町民の日常を描いたドキュメンタリー

2012年 / 日本 / 96分 / HD / カラー【製作・配給】ドキュメンタリージャパン、ビッグリバーフィルム【宣伝】bond production k.k.【宣伝協力】playtime

【監督】船橋淳【プロデューサー】橋本佳子【撮影】船橋淳、山崎裕【音楽】鈴木治行【エンディングテーマ「for futaba」作曲・演奏】坂本龍一【出演】双葉町のみなさま、双葉郡のみなさま

フタバから遠く離れて Nuclear Nation



ベルリン国際映画祭で満員の観衆が支持。
広島の被爆二世でもある監督・船橋淳が、
音楽家・坂本龍一の楽曲とともに映し出す、
報道されなかった避難生活のドキュメンタリー

10月13日[土]より
オーデイトリウム渋谷ほか全国順次ロードショー!

2012年 / 日本 / 96分 / HD / カラー【製作・配給】ドキュメンタリージャパン、ビッグリバーフィルム【宣伝】bond production k.k.【宣伝協力】playtime

【監督】船橋淳【プロデューサー】橋本佳子【撮影】船橋淳、山崎裕【音楽】鈴木治行【エンディングテーマ「for futaba」作曲・演奏】坂本龍一【出演】双葉町のみなさま、双葉郡のみなさま

あの日、福島県・双葉町民は1号機の水素爆発を耳にし「死の灰」を被った。町は全面立入禁止の警戒区域となり、急速1400人が250km離れた埼玉県の新騎西高校へ避難。地域社会丸ごと移転したこの高校は、まさに現代のノアの方舟と化す。これは、福島第一原発が立地する福島県双葉町の避難生活を描いたドキュメンタリー。原発により潤い栄えたと言われる町の盛衰と、故郷を奪われた町民の日常を9ヶ月間にわたって見つめ続ける。

監督の船橋淳は、因らずも広島の被爆2世にあたる。かねてより原爆をテーマにした作品を企画していた中で震災を経験し、「双葉町の人たちの現状を世界の多くの人に見てほしい。彼らが定住できるようになるまで記録を続けたい」という想いで本作を完成させた。

映画は2012年2月のベルリン国際映画祭フォーラム部門でワールドプレミア上映され、すべての回が満席となるなど一般客・メディア含めて話題を呼んだ。また同会場では、本作にエンディングテーマ曲「for futaba」を書き下ろした坂本龍一が登場。「(映画を見て)双葉の人たちに感情移入して何度も泣いた。日本の原子力政策を変えたい」と素直な感想を述べた。